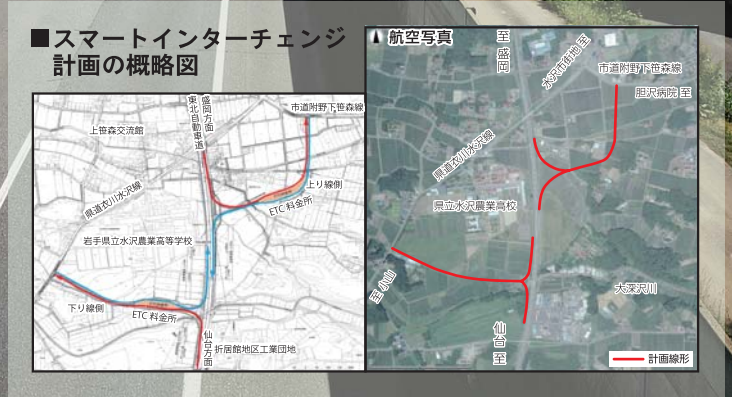
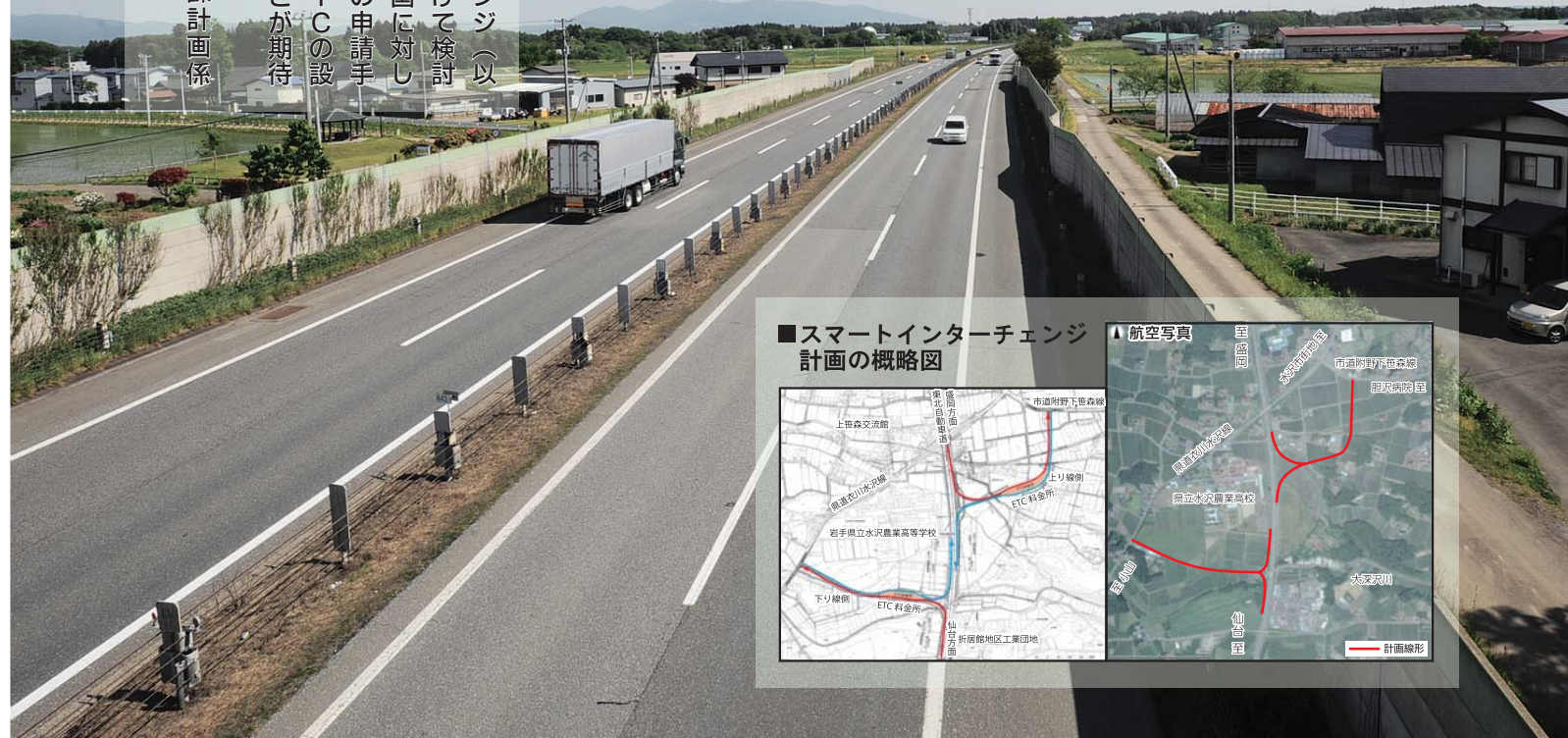


市街地への 新たな玄関口

～スマートインターチェンジ～

市は、スマートインターチェンジ（以下、スマートＩＣ）の設置に向けて検討を進めてきました。市は現在、国に対して東北自動車道に接続するための申請手続きに入っています。スマートＩＣの設置により、市民の利便性向上などが期待されます。

■問い合わせ先 本庁都市計画課計画係（内線523）



スマートインターチェンジの連結が予定されている胆沢区小山字笹森

事業着手に向け申請

市は、スマートＩＣの設置を目指し、平成21年度から検討してきました。設置箇所は、胆沢区小山の一般県道衣川水沢線が東北自動車道と交差する周辺で計画しています。

これまで、県や東日本高速道路㈱（以下、NE^{*}EX^{*}CO^{*}東日本）と事業着手に向けて濃密な協議を続けてきましたが、このほど東北自動車道に接続する申請手続きに入りました。今後も、県およびNE^{*}EX^{*}CO^{*}東日本と事業着手に向けて連携を深めていきます。

スマートＩＣとは

スマートＩＣは、高速道路の本線やサービスエリアまたはパーキングエリアから乗り降りができるように設置されるものです。通行可能な車両は、ETC車載器を搭載した車両に限定。利用車両を限定することで、料金徴収員を必要としない簡易な料金所の設置となります。従来のインターチェンジに比べて、低コストで導入できるなどのメリットがあります。

なお、今回のスマートＩＣは、本線直結型での計画です。

設置による効果

東北自動車道において、本市にある既存インターチェンジ間の距離は、17・5キロメートル。県内では、最大の区間距離となっています。

今回、計画しているスマートＩＣは、平泉前沢インターチェンジから10・9キロメートル、水沢インターチェンジから6・6キロメートルの位置となります。市中心部から近い位置に設置することで、次のようなさまざまな効果が期待され、市の活性化につながるものと考えられます。

○基幹産業（農業）の振興

市の農業生産額は県下で上位に位置しています。

しかし、既存インターチェンジから離れている集出荷施設や産直施設も多くあります。スマートＩＣを設置することで、これまで以上に流通が容易になるなど、市の基幹産業である農業の振興が図られます。

○救急医療への支援

市内の第2次救急医療機関

させます。市内への交流人口の増加、観光・イベントの誘客が期待されます。

将来に期待

市は、スマートＩＣの供用開始を30年3月として計画しています。現在、積極的に進めているILCの誘致が実現した場合、スマートＩＣの効果も大きなものとなります。

さらには、東日本大震災からの復興や今後の災害発生時において、防災拠点へのアクセスが向上すると期待されます。市民の利便性向上と、将来に期待が持てるスマートＩＣ。市は、今後も地域や市民と手を取り合いながら、事業を推進していきます。

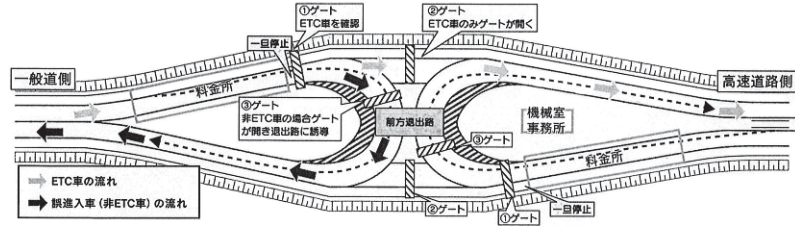
■スマートインターチェンジ計画の概要

- ◇連結位置 胆沢区小山
- ◇接続施設 上り線…市道附野下笹森線
下り線…県道衣川水沢線
- ◇運用形態 一旦停止型フルインター形式
- ◇運用時間 24時間
- ◇対応車種 ETC車載器を搭載した全車種
- ◇事業費（概算） 約35億円（県および市、NE^{*}EX^{*}CO^{*}東日本がそれぞれ負担）
- ◇整備予定期間 25～29年度
- ◇誤進入対策 ダブルゲート方式を採用



◎ダブルゲート方式とは

誤侵入を防ぐための安全対策として、前方退出路を設けたものが「ダブルゲート方式」です。
①ゲートで一旦停止。ETC車を判別し、②ゲートはETC車の場合のみ開く。
誤進入車（非ETC車）の場合は③ゲートが開き、前方退出路に誘導される。



江刺田瀬 I C が 使用可能に

釜石自動車道において、東和インターチェンジから宮守インターチェンジまでの間が開通したことに伴い、24年11月25日から江刺田瀬インターチェンジが供用開始されています。

これにより、市中心部から釜石方面へのアクセス、そして、市東部から盛岡方面へのアクセスが向上しました。

現在、同区間は、自動車専用の無料区間として運用されています。